

令和7年度 第1回 横浜市美術資料収集審査委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年11月12日（水）午後2時～午後4時
- 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
- 3 出席者 勝山滋 委員、平野到 委員、関次和子 委員、長門佐季 委員、南雄介 委員
- 4 欠席者 光田由里 委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

議題	令和7年度収集候補作品の審査
決定事項 議事	<p>1 定足数の確認 委員数6名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき、作品説明と質疑については公開とし、審査報告書作成については非公開とした。</p> <p>3 収集候補作品の審査 収集候補作品235点（寄贈55点、寄託25点、その他155点）について、横浜美術館指定管理者が概要を説明した後、検分審査を行った。 審議の結果、全会一致で上記235点について、収集が妥当との結論が出た。 議事については以下のとおり。</p> <p>4 議題：令和7年度収集候補作品の審査 ※作品の収集形態及び作品番号については、【収集形態—番号】の形で示す。</p> <p>【寄贈015】浦川大志『掲示：智能手机ヨリ横浜仮囲之図』 (南委員) ・これは寄贈される原画がそのまま「New Artist Picks」に展示されていたのか。 (横浜美術館) ・原画をもとに拡大出力された複製が展示された。休館中の仮囲い上に、かなり大きなサイズで出力されての展示だった。 (平野委員) ・その時の記録写真はあるか。 (横浜美術館) ・撮影している。 (平野委員) ・そういった実際の展示の様子が分かる資料も合わせて活用するとなお良いと思う。</p>

【寄贈018～019】ブリックリー・ペーパー（刺紙）『刺紙飛書図』ほか
（南委員）

- ・これは着色部分も版画だろうか。

（横浜美術館）

- ・そう認識していたが、今改めて確認すると彩色されたものであるように見える。確認し修正する。

【寄贈038】高嶺格『I. T.』

（南委員）

- ・これは素材は柔らかい粘土であると見受けられるが、どのように保管しているのか。

（横浜美術館）

- ・箱に入れて収蔵庫に保管している。2000年作の作品なので、25年間経過している。

【寄贈047～050】和田守弘『認知構造・表述』ほか

（関次委員）

- ・元はビデオテープの作品か。

（横浜美術館）

- ・そのとおり。収蔵にあたってはこちらでデジタル化を行う。

【寄託002～007】塩田千春『Skin』ほか

（南委員）

- ・現在のコレクションに塩田氏の作品はあるか。

（横浜美術館）

- ・ない。今回が初めてとなる。

【寄託008～022】照屋勇賢『朱の鳥、紅の空（リプトンブリスク）』ほか

（長門委員）

- ・作品が収納されている透明ケースは誰が作成したものか。

（横浜美術館）

- ・個展開催時にギャラリーが作成したものである。

【寄託023】小谷元彦『ロンパース』

（平野委員）

- ・本作は3点揃えての展示を前提としているものか。

（横浜美術館）

- ・展示方法に指定はあるが、1点もしくは2点の展示活用も可能である。

【その他（移管）001～155】相原信洋『映像』ほか

（関次委員）

- ・これまではどのように保管されていたのか。

（横浜美術館）

- ・一般の事務室内で保管されていた。幸いなことに非常に良好な状態を保っている。フィルム専用の収蔵環境を整える設備は館内にないため、今後は他の美術資料と同様の収蔵庫での保管を想定している。

	<p>(関次委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の施設への貸出等は可能なのか。 <p>(横浜美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則はNG。購入元の出版社が配給等も担っているため、その関係で取り決めがある。パブリックドメインのものや、作者本人からの貸出オファーがあった場合等は対応することもある。 <p>(関次委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらは全て同一の業者から購入したものか、それとも購入元はバラバラか。 <p>(横浜美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9割方同一の業者（ダゲレオ出版）から購入したものである。一部は作者本人等から購入している。 <p>【その他】</p> <p>(勝山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤英華氏の作品（寄贈005、006、021～037）について、一部の作品にシミ等が気になる部分があった。 ・津田時子氏（寄贈012の作者）の没年が分かればよいと思うが、調査は難しいのだろうか。 <p>(横浜美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つい先日オファー者から連絡があった。関係者に確認が取れ、2004年没と判明したとのこと。 <p>(南委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄贈作品の評価額はどのように算定しているのか。 <p>(横浜美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険対象とする金額については、美術館学芸員が対象作家の近年の売買状況などを考慮して判断している。 <p>(平野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄託の受け入れに積極的である印象を受けた。これらは将来の寄贈に繋がることを念頭に置いて受けているものなのだろうか。 <p>(横浜美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受贈に繋がることを目指してはいるが、寄託の段階でそういった話が出来るかどうかは寄託者との関係にもよる。まずは寄託を受け入れ活用の実績を積み、寄託者との関係を構築していくことが重要と考えている。 <p style="text-align: right;">議事は以上</p>
--	--